

【邑楽町】 校務 DX 計画

邑楽町では、教育委員会と学校間の連絡に学校校務支援システムを導入するなど、教職員の働き方改革を推進してきた。また、1人1台端末導入後は、授業支援ソフトやグループウェア、クラウドサービス等を活用し、伝達事項、資料や教材をオンラインで共有を可能とした。さらに電子黒板を整備し、授業における ICT 活用を場を拡大してきた。

このように、各種デジタル化・オンライン化を進めてきたが、学校現場においては依然として紙ベースの資料がみられるのも事実である。そのため、業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要がある。

文部科学省による「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や、「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、本町が教育 DX を推進する際の具体的な取組みを次のとおり定める。

1. ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

邑楽町ではこれまで、教育ネットワークを児童生徒の個人情報を取り扱う「校務系」と、児童生徒および教職員が教育活動に利用する「学習系」の2つに分離し、個人情報を取り扱う場合、VPN（仮想専用ネットワーク）を使用できる環境を整えている。

教職員の働き方改革と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方に基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じたうえで、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進める。

(2) 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムはオンプレミス型（庁舎センターサーバー上）で運用しており、教務・保健・学籍・成績管理などの幅広い業務で利用している。

これをクラウドツールと連携し、教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、校務支援システムのクラウド化について、地域の校務支援システム共同調達や全国の先進自治体の動向を調査する。

2. 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBT などの教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育データを自動的に収集・分析・加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツール（データ連携基盤ダッシュボード）の導入やセキュアな環境下での校務における生成 AI の活用に向けた検討を行う。

なお、現状においては、教職員の ICT 活用能力に個人差があり、上手く活用できていないケースも散見される。そのため、全ての教職員が効果的に活用できるよう、1人1人の ICT 活用能力に応じた個別指導や ICT 研修の実施回数を増やすなどの対応についても、学校や ICT 支援員等と連携を図りながら、合わせて検討する。

3. FAX・押印の見直し

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、多くの学校で未だ保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されている。そのため、災害や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。

4. その他

デジタルドリルなどの活用が進む一方で、学習現場では紙のテストの採点業務が教員の負担になっている。そのため、教職員の採点業務の効率化についても調査研究を行う。